



# 石堤っ子

高岡市立石堤小学校

学校だより No.5

平成29年 11月1日

## いい声、響いています！

先日行われた学習発表会には、ご家族の皆様が揃って子供たちの学習の成果を見に来てくださり、ありがとうございました。

2学期の目標は、「いい声を出そう」「相手も自分もいい気持ちになるためには、自分の声でどう伝えたらよいか考えよう」です。学習発表会では、展示作品やステージ発表で、自分の思いを形にし、声に出して表現していました。子供たちの思いは伝わったでしょうか。

その後も、連合音楽会、新生苑祭等、多くの人たちの前で発表する機会があり、石堤っ子たちは「いい声」を響かせ、思いを伝えることができました。

「思いを伝える。」子供たちにとって、それはそんなに簡単なことではありません。伝えたい思いをもつこと。そしてそれを形にして伝えること。『いい声』とは、さらに相手のことを思いやって、その伝え方も考える。」ということです。

2年生の国語科「お手紙」の学習では、音読劇で登場人物の気持ちを表すために、表情や視線、声の大きさ、話す速さ等を工夫して、役になりきって表現していました。また、6年生の算数科「割合」の学習では、「まず～、次に～、だから～」など、思考の筋道を、相手に分かるように工夫して説明していました。このように、子供たちは日々の学習の中で、思いを伝える術を身に付けています。そして、自分の思いがうまく相手に伝わり、相手もいい気持ちにさせることができれば、子供たちの伝えたい思いはさらに膨らみ、「いい声」となって響いていくことでしょう。



6年算数科「割合の表し方を考えよう」

## 自己有用感を高めるために

自己有用感とは、人の役に立った、人から感謝された、人から認められたなど、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価のことです。子供は、他者からの肯定的な評価やまなざしを強く感じることで、自己有用感を高め、さらに「人（他の子供）と関わりたい」という意欲を獲得していきます。いわゆる、社会性の基礎となる部分です。

周りの大人は、子供の頑張っている姿を捉え、適切に「褒めること」「認めること」をしていきたいものです。「いい声」が響いた時、その時がチャンスです。

（裏面にワンポイント・アドバイスを掲載しています。）

※子供たちの日々の活動の様子は、ホームページをご覧ください。

## ★ワンポイント・アドバイス★

### 「褒めること」と「認めること」の違いは？

大人の側にしてみれば、この両者の違いはあってないようなものでしょう。「認めてあげようと思って、褒めている」「褒めることは、そのまま認めること」という感覚なのではないでしょうか。そして、多くの子供も、そんな感じで受け止めていることでしょう。とりわけ、年齢が低いほど、その差はないに等しいに違いありません。

しかし、「認めてほしい」「認めてもらいたい」と強く思っている子供には、そんな大人の言い分は通じないのかもしれませんが。中には、「褒められてもうれしくない」といった子供も出てきていたりするのです。一体、何が違うのでしょうか。

大人が子供を「褒める」ときは、一般に大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。そして、大人側の基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。反対に言えば、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることは稀でしょう。

それに対して、子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のではないのでしょうか。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「褒められたい」のです。だから、大人の考えた基準に達していなくとも「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた基準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりするわけです。

だから、自分がさほど努力もしていない、自分の功績ではないことを「皆さん、よく頑張りましたね」と全員を一括りにして褒められても、さほどうれしくもなく、励みにもならないのかもしれませんが。子供の実際の行動と向き合うことなく、表面的にお世辞を言ったり、ちやほやしたりしても、子供の「自己有用感」はおろか、「自尊心」すら高めない可能性が高いのです。

行事に取り組む、学習に取り組む際などに、子供自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたかを評価することが「認める」という行為では重要になります。それが、「自己有用感」を育むのです。単に良かった・悪かったと評価するだけの「褒める」では、「自尊心」を育むことはできても、「自己有用感」を育むことにはなりにくいのです。